

課題

資質・能力

新必修修科目(案)

「公共」(仮称)

国家・社会の形成者を育成

(1)「公共」の扉

ア 公共的な空間に生きる私たち

イ 公共的な空間における人間としての在り方生き方

(2)自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために

社会を構成する主体となるために、協働の必要な理由、協働を可能にする条件、協働を阻害する要因などについて考察を深める。

ア 政治的主体となること

イ 経済的主体(生産者、労働者)となること

ウ 法的主体となること

エ 様々な情報を発信・受信する知的主体となること

様々な主体となる個人を支える家庭や地域等のコミュニティ

キャリア教育の
中核機能

学習活動の例

討論、ディベート
模擬選挙、模擬投票
模擬裁判
外部の専門家の講演
新聞を題材にした学習
体験活動、インターンシップの準備と振り返り …

関係する専門家・機関

選挙管理委員会、企業、
経済団体、起業家、弁護士、
報道機関、消費者センター、
留学生、NPO、NGO …

(3)持続可能な社会づくりの主体となるために

協働の観点から、また個を起点とした自立した主体となる力を育む観点から、今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえつつ多様性を尊重し、持続可能な地域、国家、国際社会づくりに向けた役割を担う主体となることについて探究を行う。

ア 地域の創造

イ 持続可能な社会

ウ 我が国と国際社会

家族・家庭、消費者等に関する個人を起点とした自立した主体となる力を育む家庭科等と連携

立場や文化によって意見の異なる様々な課題について、その背景にある考え方を踏まえてよりよい課題解決の在り方を協働的に考察し、公正に判断、合意形成する力
課題解決のための論理的な思考

様々な課題を捉え、考察するための基準となる概念や理論を、古今東西の知的蓄積を通して習得する力

国家・社会の形成者として、必要な知識を基盤として選択・判断の基準を形成し、それを使って主体的な選択・判断を行い、他者と協働しながら様々な課題を解決していくために必要な力を養う公民科目

公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度

現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚

①積極的に社会参加する意欲が国際的に見て低い

現代社会の諸課題等についての理論や概念の理解、情報活用能力、自己の生き方等に結びつけて考えることに課題

課題解決的な学習が十分に行われていない

キャリア教育の中核となる時間の設定

公民科目新設の方向性として考えられる構成（たたき台案）

新必修修科目(案)

「公共」(仮称)

(1) 「公共」の扉

倫理的主体となること

ア 公共的な空間に生きる私たち

今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえ、

・様々な立場や文化等を背景にして社会が成立していること

・「自分らしい生き方」を問いながら自らを成長させること、

人間は社会的な存在であることを認識し、対話を通じてお互いを高め合うこと、

両者によってよりよい集団・社会を作り出していくこと(勤労観・職業観の育成を含む) について学んではどうか。

イ 公共的な空間における人間としての在り方生き方

社会に参画し、他者と協働する倫理的主体として判断するための基準となる、

「行為の結果としての社会的効用を重視する考え方」、

「結果よりも、行為の動機となる人間的責務などを重視する考え方」、

について理解させる。その際、

・人が追求するものは経済的利益に限られるものではなく、多義的であること

・両者ともに大切であり、そのバランスを考えていくことが重要であること

・社会的効用について、多面的・多角的に考えていくことが重要であること

・行為の動機について、個々の動機に留まらず、それらを継続的に考えていくことにより、人間としての在り方生き方について考えていくことが重要であること

などを取り上げてはどうか。

(囚人のジレンマ、共有地の悲劇等の思考実験や、環境保護、生命倫理等について概念的に考える学習活動を取り入れてはどうか。)